

# 実践のまとめ（小学校2学年 道徳科）

授業公開日 令和3年11月2日第5校時

指導者 南魚沼市立塩沢小学校

教諭 大重 涼平

## 1 研究テーマ

### 実感を伴って道徳的価値を理解する授業 ～体験的な学習を中心に～

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

「特別の教科 道徳」学習指導要領にある「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」学習の実現に向けて各校で授業改善が活発に行われ、質的向上・量的確保の両面から「道徳科」の充実が進んでいる。

道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成28年7月22日）から「道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）」が示された。各学校では「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を意識した実践や、構造的な板書、心情スケールやネームプレートなど学びを深めるための教具やツールが次々と共有され、新しい道徳科の授業を身近なものとして感じるようになった。

一方、私が授業改善を進めていく中で、役割演技や問題解決的な内容の授業、多様な教具を活用した活動を「やりっぱなし」で終わってしまうという反省がある。「やりっぱなし」とは、活動そのものが目的のようになってしまい、活動を通して学んだことが道徳的価値について考えを深めることにつながっていない授業を指す。教師が道徳的価値について理解し、児童の思考を道徳的価値につなげるための方策をもつことが必要だと改めて強く感じる。

そこで、本研究では授業でねらう道徳的価値について、まず対象学年を念頭において明確にする。次いで「体験的な活動」として主に役割演技を用いることによって、実感を伴って道徳的価値を理解する授業を目指す。そして、ねらいを達成するにあたって、活動がどのような役割を果たしたのかを検証する。本研究を通して、児童が実感をもって道徳的価値に迫る授業の具現を目指す。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 低学年児童が実感をもつことができる教材提示の工夫

教材文の場面をより深く理解できるように、ペープサートと効果音を活用する。教具の助けにより、児童は物語の登場人物の葛藤に共感したり、それを乗り越えた意思の意義を理解したりすることで、実感を伴って理解することが可能となると考える。

#### ② 役割演技を用いた体験的な学習

役割演技を用いて状況の理解を深める。低学年の児童にとって教材文の行間を読むことは難しい。そこで、児童が演者となり登場人物の立場に立って考えることで、より実感を伴った理解を促す。また、演者以外の児童も観客として演者の表情や心情の変化を捉え、共有することにより、直接的に描かれていない状況の理解が進むことが期待できる。これ

らの理由から、役割演技により道徳的価値の理解が深まると考える。

### ③ 構造的な板書による思考の可視化

板書を児童の思考の補助となるよう工夫する。具体的には、登場人物の関係性を矢印で表したり、登場人物の思いを吹き出しで表したりするなど構造的に示す。また、ネームプレートを活用して発言者を明確にするとともに、その児童の発言を生かして授業を展開させることで、児童に学習の当事者として考えるよう促す。

### (3) 研究テーマにかかわる評価

ワークシートへの記述内容を元に分析する。記述から、児童が教材の登場人物を自分に置き換えて考え、イメージして理解しようとしているか、自らの行動や考えを見直していることがうかがえるかに着目して検証する。また、発話記録も補助資料として活用する。

## 3 指導計画

### (1) 主題名

思いやりの心で（内容項目 B-6 親切・思いやり）

### (2) 教材名

「ぐみの木と小鳥」（「新・みんなのどうとく」 学研）

### (3) 主題設定の理由

#### ① ねらいとする道徳的価値

社会生活において人間関係を構築することは大切である。本教材で扱う内容項目である「相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすること」は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的な姿勢である。様々な人との関わりの中から相手の考えや気持ちに気づき、優しく接することで、自分の社会生活も豊かになる。

児童は様々な人と関わり合って学校生活を送っている。誰に対しても温かい心で接するなどの具体的な行為につなげるために、道徳科では思いやりや親切な行為の意義を、実感を伴って理解するよう指導していく必要がある。

#### ② 教材と児童

児童は、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などに関わりの中で、徐々に相手の考えや気持ちに気づくことができるようになってきている。

児童は、親切にしたいという気持ちを素直にもっており、温かい気持ちに溢れている。しかし、恥ずかしさや遠慮などから、親切の相手が仲のよい友達に限られてしまったり、行動に移すことができなかつたりすることがある。

本時の教材「ぐみの木と小鳥」は、小鳥がぐみの木の声がけに賛同して、病気で療養しているりすのためにぐみの実を届ける話である。小鳥は悩みながらも、りすを思い、嵐の日もりすにぐみの実を届ける。小鳥が困っているであろうりすのために、危険を顧みず、思いやりの気持ちでぐみの実を届ける姿から、児童が困っている人の気持ちに気づき、思いやり、優しく接することの大切さを考えられる教材である。

本教材を通して、児童が誰かに親切にすることで、お互いが温かい気持ちになることを実感し、親切な行為を自ら進んでできるようにしていく。また、「ありがとう」と言われ

ることは自分の喜びにもなることや、思いやりの行為が周囲を良い気持ちにすることにも触れ、親切な行為に向けての意欲付けとなるようにする。

**(4) 他の教科、領域との関連について**

	教科・領域	道徳科	教育活動
	特別活動（学級活動） 「ハートぼかぼかカード」 (4月・年間)		1年生を迎える会（4月） たけのこ班集会
	体育「1年生にダンスを教えよう」(5月)		
	生活「町探検」(6月)		大運動会（6月） クリーン作戦（7月）
2学期	生活「町探検」(9月)	「まいごのすず」 (9月) B-6 親切・思いやり	塩小フェスティバル（11月） クリーン作戦（12月）
	学習発表会（10月）	「ぐみの木と小鳥」 (11月) B-6 親切・思いやり	
3学期	体育「鬼遊び」(2月)		
	生活科 「もうすぐ3年生」(3月)	「公園のおにごっこ」 (2月) B-6 親切・思いやり	6年生に感謝する会（3月）

**(5) 本時のねらい**

嵐の中、ぐみの実を届けた時の小鳥の思いについて意見を述べ合ったり、その後の小鳥とりのすのやりとりを役割演技したりすることを通して、まず、親切にすると相手も自分もうれしくなり、心が温かくなることを実感させる。次いで、これからの生活の中で、相手が困っていることに気づき、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

**(6) 本時の展開**

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
導入	□思いやり・親切について考える。	○みんなの親切にしてもらったことをしようかしましよう。 ・遊ぼうって誘ってもらった。 ・「大丈夫？」って心配してくれた。 ・相手の気持ちを考える人	◇宿題として「親切にしてもらったこと」について作文を書かせておく。

展 開	<p>□「ぐみの木と小鳥」の話を読み、場面を確認する。</p> <p>□嵐の中、りすにぐみの実を届ける小鳥の思いについて考える。</p>	<p><b>ぐみの木と小鳥の前半を範読し、場面を理解する。</b> (嵐の中、小鳥がじっと考える場面まで)</p> <p>○ぐみの木はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が行きたいけど行けない。</li> <li>・小鳥さんの力を貸してほしい。</li> </ul> <p>○ぐみの木にりすのことを聞いた小鳥は、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんが心配。</li> <li>・ぐみの木さんの役に立ちたい。</li> </ul> <p>◎嵐がやむのを待っている間、小鳥はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐が怖い。</li> <li>・無理をして、今行かなくてもいいんじゃないか。</li> <li>・りすさんを放っておけない。</li> <li>・私が行かないとりすさんが困る。</li> </ul>	<p>◇ぐみの木、小鳥、リスの掲示物を黒板に貼りながら、話の内容を確認する。</p> <p>◇適宜ペープサートの動きを止めて、それぞれの場面の登場人物の気持ちや状況について確認する。</p> <p>◇児童の反応を見て、動作化を取り入れる。</p> <p>◇効果音を用いたり、教室の明かりを調整したりして、児童が困難さについて実感をもって理解できるようにする。</p> <p>◇小鳥の「行きたい気持ち」と「不安な気持ち」について、対比して整理する。</p>
	<p>□役割演技を通して、「親切・思いやり」について考えを深める。</p>	<p><b>ぐみの木と小鳥の後半を範読し、場面を理解する。</b> (嵐の中、小鳥ぐみの実を届ける場面)</p> <p>○りすが元気になった後に再会した場面を、役割演技してみましよう。</p> <p>りす役：この前は、嵐の中ありがとう。</p> <p>小鳥役：りすさんが元気になってよかったよ。</p> <p>ぐみの木：二人とも無事でよかったよ。さあ、ぐみの実を食べて。</p>	<p>◇挙手した児童を中心に小鳥とりすの役を決める。観客となった児童全員にもぐみの木の役割を充て、ぐみの木として様子を見守るよう指示する。</p> <p>◇小鳥の気持ちを中心に、演者に役割演技を通しての気付きや感想を聞き、全体で共有する。</p>
終 末	<p>□思いやり・親切について考える。</p>	<p>○みんなはどんな親切がしたいですか、自分がしたいことについて考えましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人がいたら、「大丈夫？」って聞いて、力になりたい。</li> <li>・友達が喜ぶことを考えて、それをする。</li> </ul>	<p>◇ワークシートに記入する。</p> <p>◇記入後、学級全体で共有する。</p>

## (7) 本時の評価

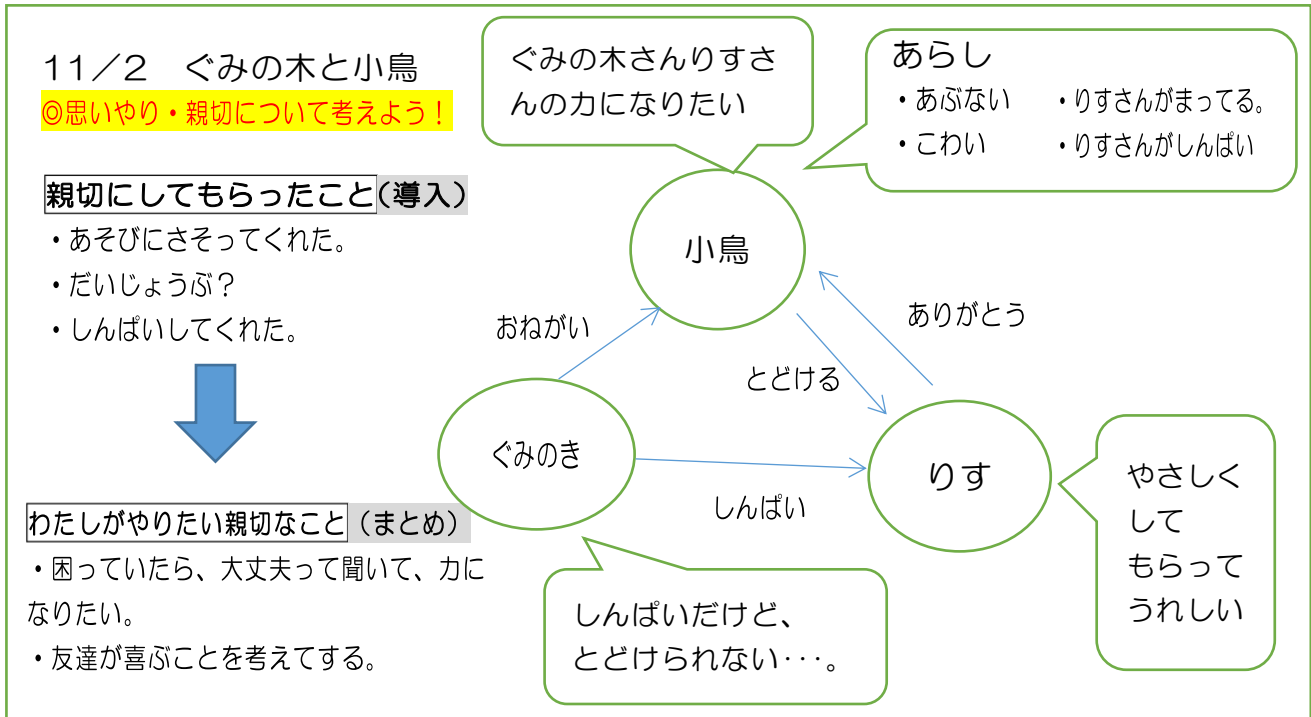
### ① 評価の視点

- ・「親切・思いやり」について多面的に考えることを通して、理解が深まったか。
- ・体験的な学習により、進んで親切にしようとする心情が高まったか。

### ② 評価の方法

- ・発言
- ・ワークシートの記述
- ・行動観察

## (8) 板書計画



## 4 授業を振り返って

### (1) 授業の実際



〈当日の板書〉

導入での「実生活の親切にしてもらったこと」の想起の場面では、事前に宿題として考えさせておいたことで、短時間で行うことができた。教材文は前半・後半に分けて提示したが、低学年児童の全体を客観的に理解する力の弱さを補う面で有効であった。ペープサートを活用しながら内容を確認したことは、ぐみの木、小鳥、りすの三者の立場を押さえることや小鳥の葛藤する気持ちを強調することに有効であった。児童はこれらの手立てに助けられ、ぐみの木の「りすが心配だけど自分には何もできない」や小鳥の「りすやぐみの木の力になりたい」「嵐の中、出かけることへの不安」、りすの「不安」「うれしい」といった感情を教材文から想像し、感じ取っていた。また、児童が葛藤を乗り越えてりすの元へ向かう小鳥の行動の意義について共感的に理解することができた。

授業の後段において、役割演技を用いて児童の考えを深める場面を設定し、嵐が去り、りすも元気になって小鳥とぐみの木と再会する場面を創作させた。活動からの見取りでは、児童が、小鳥が困難を乗り越えて三者がよりよい関係になったことを理解し、表現していると確認できたため、一応の目的を達成したと思えた。しかし、授業記録を手がかりにして振り返ったとき、児童の考えを深める教師の働きかけが十分ではなかったのではないかと考えた。低学年の児童の語彙や表現力はまだ育っていない。したがって児童が役になりきって語る言葉も多くはない。それに対して「どうしてそう言ったの?」「どういう意味?」と寄り添いながら気持ちを汲みとり、より児童の中にある思いや考えを表出させることで、演者となった児童が自分の思いを確認するとともに、学級全体で深めたり味わったりすることができたのではないか。

## (2) 手立ての有効性について

### ① 低学年児童が実感をもつことができる教材提示工夫



ペープサートを用いた様子

ペープサートや効果音を取り入れたことは非常に有効だった。嵐の場面を表す際に、カーテンを閉めるなどの環境作りをしたが、目の前に嵐が発生したような臨場感が生まれて児童の表情が変わり、経験に由来するつぶやきが出た。また、ペープサートを用いたこと

で状況を時系列で詳しく表すことができ、児童の理解がより確かなものになった。対象者となる学習者に合わせて教材提示を工夫することは、低学年が場面を理解したり、登場人物の立場になって考えたりする上で重要であることを改めて感じた。

### ② 役割演技を用いた体験的な学習の実践



役割演技の様子

児童は役割演技を通して考えを表出したり、全体で理解を深めたりすることができた。役割演技の際に、留意したのは補助自我にあたるりす役の人選である。ワークシートの記述をもとに候補者を想定しておき、挙手した児童の中らりすの「さみしさ」「不安」といった

心情をしっかりと把握できている児童を指名した。りすの

状況を、実感を伴って理解していることが感謝の役割演技に必要であると考えたためである。

今回の実践を通して、補助自我にあたる児童

#### 【役割演技でのやりとり】

小鳥：もう元気になった？

りす：元気になったよ。ありがとう。

小鳥：どういたしまして。

りす：☆今度いっしょにぐみの実を食べに行こう。

小鳥：うん



の人選は重要であり、この人選によって、役割演技後に全体で思考を深められるかどうかが決まってくるのが分かった。教材文では、りすについて多くは語られていない。発話記録の中の☆は、りすになりきった児童が、思いを伝えるための積極的な働きかけを創作したものであり、思考の深まりが感じられる。加えて、役割演技で当該学級の児童がどのようなやりとりをするのか、教師は児童のやりとりを受けてどのように深めていくのかについて想定し、その手立て（問いかけなど）を事前にいくつか用意することによって、役割演技の効果はさらに大きくなると感じた。

### ③ 構造的な板書による思考の可視化

登場人物の関係性を構造的に表すことで、登場人物の立場や思いを意識して考えることができた。また、導入時の「自分がしてもらった親切・思いやり」と授業後の「自分がしたい親切・思いやり」について上下に並べて書き、比較することで、児童の考えや学びが深まった。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

本実践の手立ては、低学年児童が実感を伴って考える授業の実現に向けて有効であった。児童のワークシートの記述や発言にはその葛藤場面に自分が立ったかのようなものが多く見られた。右図は児童がワークシートに記述した、「嵐が止むのを待っている小鳥の気持ち」についての記述を抜粋したものであるが、小鳥の気持ちを自分のことのように感じ取り、揺れ動いていることが読み取れる。これは「そうあるべき姿」を現実の場面とは切り離して述べさせる従前の授業とは異なる。この記述からは「りすさんのために行く」と短絡的に考えるのではなく、嵐の中を飛ぶ不安や心配を押し量った上でどうするか考えていることが分かる。前段でこれができることは、その後、危険を省みずりすのもとへ飛び立った小鳥の行動の道徳的価値を理解することにつながった。島恒生は「『B親切、思いやり』の学びの発達段階」として、低学年で自覚させたい考え方は「親切にすると、相手だけでなく自分や周りの人たちもうれしくなり、心が温かくなる。」であるとしている。（NITS校内研修シリーズ）児童は役割演技を通して、「親切、思いやり」の心地よさを味わうことができた。

また、道徳科の教材と児童の実生活や経験をどのようにつなぐのか、教材の理解と学習を経ての実生活をどのようにつなぐのか、という課題に対する手がかりも得ることもできた。今回、「実感」をキーワードとして授業改善を進める中で、両者のつなぎ目を埋めるのが「実感」であると感じた。特に低学年の児童が教材の場面をしっかりと捉えられたとすれば、それは実感が基盤となっている。そして、「実感」はその後の生活につながる。右図にある児童の記述からは教材文のできごとを自分のこととして感じ、実生活へつなげようとする意欲が読み取れる。

#### 【嵐が止むのを待つ小鳥の気持ち】

- ・りすさんが心配だけど、嵐の中は行けないな。
- ・嵐が怖いから行きたいけど…。
- ・りすさんはどうしているかな。
- ・りすさんが待っているけど、この嵐だと飛べないかもしれない。

#### 【終末：自分やしたい「親切」（ワークシートより）】

- ・困っている友達を助けたいです。
- ・落とし物を拾ったり、遊びに誘ったり、友達が喜ぶことをしたいです。
- ・ちょっと大変でも、相手がうれしいことをしたいです。
- ・よろこんでくれることをしたり、言ったりしたいです。

さらに、役割演技は刺激となり、児童の考えを活性化することも分かった。動きを伴う役割演技は、ただ、座って学習することとは異なり、45分の学習の中で児童に「よし、考えよう！」とスイッチを入れ直すような役割があった。低学年児童の集中力を継続させる点でも、効果は大きい。

本実践では役割演技を今回の授業だけではなく年間を通して取り組んだ。児童は回数を重ねることで、役割演技の中で自分自身の思いを言葉や行動で表現できるようになった。また、これは教師が役割演技の指導に慣れるというメリットもあった。教師も回を重ねるごとに活動の流し方や適切な支援を選択する力が向上した。

## (2) 今後の課題

今回の研究では、低学年を対象に「実感を伴って道徳的価値を理解する授業」を追究し成果を得た。今後は、児童の発達段階と本テーマとの関連についてさらに検討し、対象児童にとってどのような手立てをとるのが適切か考えていきたい。そして、中学年、高学年になっても、授業で自分の思いを表現できるということは大切であり、この低学年での経験を継続させたい。そのためには、道徳教育推進教師や学年部など、全校体制で行うことが有効であろう。

さらに、道徳科は道徳教育の要として全教育活動で行われる道徳教育と密接に関連し、道徳的価値の自覚や生き方についての考え方を深めさせる補充・深化・統合を留意して指導することが求められる。(学習指導要領解説 特別の教科 道徳編) 本実践では、学級活動や縦割り班での活動、児童会祭といった活動の中で、児童が意欲をもって「親切、思いやり」の行動をとれるように声掛けを行ったが、道徳科の中で学校生活を想起させる場面を意図的に設定する必要がある。そして、特別活動を道徳実践の場としてとらえ、道徳実践力の向上へとつなげられるように、特別活動を念頭に置いた道徳科授業の実施や、特別活動との関係性の見直しを重ねていきたい。

### 〈参考・引用文献〉

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」2015.7

中越教育事務所「授業改善リーフレット2021フォローアップ第3号道徳科の授業改善『主体的・対話的で深い学び』」2021.10

島恒生・吉永幸司「みんなでつくる『考え、議論する道徳』」小学館 2017.2

早川裕隆「実感的に理解を深める！体験的な学習『役割演技』でつくる道徳授業 学びが深まるロールプレイング (道徳科授業サポート BOOKS)」明治図書 2017.6

早川裕隆「役割演技を道徳授業に (シリーズ・道徳授業を研究する (1))」明治図書 2004.7

「『月刊 道徳教育』 2019年3月号 特集：役割演技ウルトラガイド」 明治図書 2019.2

NITS校内研修シリーズNo.64「発達の段階に応じた道徳科の指導 畿央大学 島恒生」令和2年2月4日掲載